第12回国際微粒子研究協会年会報告 (IFPRI' 91)

井伊谷 鋼 一*
Kouichi IINOYA

写真1 日本からの参加者（アルバカーキー，ホテル，ラボサダ前にて）（右から，山田，田中，内藤，杉田，東谷，井伊谷，神保，竹川）

写真3 砂漠バーベキューの会場前にて

1991年の IFPRI 年次総会は米国ニューメキシコ州アルバカーキー市で開催された。同地域にはサンディア国立研究所，ロスアラモス国立研究所及びニューメキシコ州立大学があり，互いに協力して研究を推進している。前者は軍事機密が多く見学は一般に不可能である。別にラブレース研究所が，エアロゾル関係で有名で，日本か

写真2 砂漠のバーベキュー会場にて
（中央，サリー大の Ghadiri 博士）

らも見学者がある。同市の近郊には4000米級のサンディア山があり，ケーブルで登れるが，冬はスキーも出来るし，夏はハンググライダーをやっている。また近くをリオグランデが流れており，その近傍は緑があり，砂漠といっても灌木は所々にあるし，市内は地下水を汲み上げた水道で灌水し樹木や芝生もある。かつてはインディアンの居住地で建物は泥壁を模した褐色で統一されている。見学したロスアラモスは原爆発祥の地として有名で博物館もあるが，高度は3000mぐらいで，急にバスで上るので一寸フラフラする程である。近くのサンタフェは観光地としても有名らしい。

年会への日本からの参加者は会員会社4社の山田（日清製粉），内藤（ホソカワミクロン），杉田，山田（清水建設）及び竹川（三菱重工）と，神保（名大），東谷（九工大）及び筆者であった。（写真1）また年会の講演題目等は表1の通りで，朝から晩まで忙しいスケジュールであることは毎回同じであるが，年に一度の再開で旧交を暖め情報交換するのは楽しいと共に有効な刺激であろう。前回も書いたが，全体で30社未満の会員制で，基礎研究を協力して推進する団体である。日本からの企業がもう少し増えることが望まれているので，国際交流親善のためにも是非入会をお願いして91年度の報告とする。

平成3年12月17日受付

* 社団法人：日本粉体工業技術協会

（〒606 京都市左京区田中関町2-7 思文閣会館33）

T E L 075-751-0195

表1 第12回 IFPRI 年会次第

6月2日(日) 10:00-19:30 各種委員会

6月3日(月) 8:00-18:00

A) 湿式粒子(スラリー, レオロジーと凝集)

1. 懸濁液レオロジー; J. Mewis 教授(ルベン大, ベルギー)
2. 凝集及び相分離コロイド懸濁液の構造とレオロジー; W. B. Russel 教授(プリンストン大, 米国)
3. 固液分離; L. R. White 教授(メルボルン大, オーストラリア)
4. プロセス, シミュレーションにおける物質物理; M. Adams 博士(ユニレバー社, 英国)
5. 濃厚懸濁液レオロジー; L. V. Woodcock 博士(ブラッドフォード大, 英国)
6. 固液分離の化学的局面; P. Somasundaran 教授(コロンビヤ大, 米国)
7. 乾湿両粉体流れ; H. Buggish 教授(カールスルーエ大, 独国)

B) 粒径減少

1. 衝撃摩耗; M. Ghadiri 博士(サリー大, 英国)
2. 粉碎データの評価; R. Weichert 教授(クラウスタール大, 独国)
3. 超微粒子の安定性に対する磁場の影響; 東谷 公教授(九州工大)
4. 粉碎の基礎研究, 過去の結果と将来の課題; P. King 教授(ユタ大学, 米国)

6月4日(火) 8:00-17:30

5. 破碎力学; P. Isherwood 教授(インペリアル大学, 英国)
6. 液中超微粉碎速度と限界粒径; 神保元二教授(名古屋大学)

C) 粉体流れ

1. 流動層; D. Geldart 教授(ブラッドホード大, 英国)
2. 流動層よりの飛出し; L. Hailu 博士(ケンブリッジ大, 英国)
3. 高温流動層における静電気及び磁気現象; G. M. Colver 教授(アイオワ州立大, 米国)
4. 微粉体の急速剪断流れ; R. Jackson 教授(プリンストン大, 米国)
5. 粉体流れにおける固化; C. F. Campbell 教授(南カリフォルニア大, 米国)

D) 粒子生成

1. 造粒; G. Tardos 教授(ニューヨーク市大, 米国)
2. 輪郭のはっきりした微粒子-成果と問題点; E. Matijevic 教授(クラークソン大, 米国)
3. エアロゾル生成; R. C. Flagan 教授(カリフォルニア工大, 米国)
4. 噴霧; P. E. Sojka 教授(パデュー大, 米国)
5. 湿式粒子生成; C. F. Zukoski 教授(イリノイ大, 米国)

6月5日(水) 8:00-17:00

6. マイクロカプセル化-展望と新プロセス; R. E. Sparks 教授(ワシントン大, 米国)

E) 物性測定

1. 標準粒子製造と評価; 井伊谷鋼一(日本粉体工業技術協会)及び M. Ranade 博士(メリーランド大, 米国)
2. BCRの標準粒子関係; D. Gould 博士(EC委員会, ベルギー)
3. 良好分散系; D. M. Smith 博士(ニューメキシコ大, 米国)

F) 希望大学のポスターセッション及び評価会議等

G) 砂漠でのバーベキュー(3M及びコダック社の主催)

6月6日(木) 8:00-16:00

H) 各共通課題グループ会合及び最終報告会議等

6月7日(金) 8:30-18:00

I) ニューメキシコ大学粉体関連研究室見学(午前)

J) ロス・アラモス研究所(サンタフェ近郊)見学(午後)